



行者下

道路の改修前は岩山が迫っていて大変な難所でした。昭和三十年ごろにも小型トラックが寒狭川まで転がり落ちて、何人が亡くなったのを憶えています。

峪を隔てた自分の家などにも、酔いどれの唄が聞こえたものである。その家端れから、一町ほど離れると昔の村境で、道上の岩の上に、サワラか何かの大木が道に被さりかかって、根元に行者の石像があって、馬頭観音や六地藏なども祀ってあった。道下は目の下に寒狭川を覗くえらい深い谷だった。

ある晩そこを通りかかると、向こうから真っ黒い提灯が一つ来たそうである。その提灯と摺れ違いざま、ひょいと先方の顔を見ると、白髪頭のひどい婆さんだった。はて見たこともない人だがと思って、すぐ後ろを振り返って見たが、もう提灯も婆さんの姿も見えなんだという。その時は身内がぞくぞくしたそうである。すると今度は行く手の道に、長々と寝ている獣があった。犬のよ

狸の話では、何と云うても化け話が多かった。これは現に生きている某の実話で、某が四五、六のおりのことだった。

銭亀(東郷村大字出沢字銭亀)の行者下へは、毎度狸が出て、人を嚇すという噂があった。県道に沿った僅かな家並みで。藪陰の、日もろくろく当たらずのような処だった。居酒屋が一軒あって、近所のものがよく酒を呑んでいて、夜遅くなってから、



行者様

道路の拡幅工事で移転され、現在は国道から十数メートル昇った処で、通行する人々をひっそりと見守っています。

うでもあり、また狐だか狸だかさっぱり得体が判らない。不思議なことにその獣が、あまり大きくもないのに、道いっぱいになったことである。跨いで通るのも気持ちが悪いので、暫く立ち止まって思案したが、結局尾の方をそっと通り抜けたそうである。すると急に四辺が真っ暗になって、一步も前に進めなくなった。うっかりすれば、一方の谷へ落ちる心配がある。仕方がないので度胸を据えてそこへ屈みこんだ。そうして腰から煙草入れを出して、一服吸いかけたと言う。その間に前の方を、見るともなしに見ると、どうやら白いものがぼうっとある。だんだん見ているうち、気がつく、それが行く手へ続いた街道だった。空を仰ぐと星がからりと出ている。遠くの山も見えて、川瀬の音も聞こえる、まるで夜が明けたようでそのまま家へ帰ったが、それからは何事もなかったそうである。



行者下から寒狭峡を望む

二十年ばかり前のことである。狸の悪戯だと言うておるが、そこへ出るのはいは幽霊だと言う説もあった。村でたしかに死んだはずの人が、そこを歩いて行く姿を見たと言うものもだんだんあった。現に九十幾つで死んだ婆さんが、杖に縋って来たのにたしかに遇ったと言うものもあった。して見れば狸の悪戯と言うたのは、狸のためにはあるいは冤罪であったかも知れぬ。しかしまた一方では、ここから山続きのフジウの峰の狸が、数町離れた算橋の藪下へと、交る交る出るとも言うた。

算橋は家が二軒しかない部落で、道下がずっと田圃になっていた。そこへもやはり婆さんに化けて出たと言う。ある夜更けに出沢のものが飛脚に行くと、そこを前に立っていく婆さんがあった。真っ暗い夜にも拘らず、着物の唐棧の縞柄が、はっきり読めたと言う。滝川の入口の、大荷場川の橋の袂まで行くと、そこから川の中へ飛び込んでしまったと言う。

この話は狸でないことは判っているが、以前近くの淵で、砂利運びに雇われていた女房が、乗っていたカモ（筏の一種）から落ちて溺れて死んだことがあった。その女房が溺れた時の姿で、忙しそうに田圃を道の方へ来る姿を、たしかに見たと言うものがあった。乳呑児を残して気の毒だったともっぱら噂のあった際だったから、あるいはそうした幻を見たのであろうが、場所はやはり同じだった。